

SDGs を啓発する取組みを開始

桐生商店連盟(協)

SDGs (持続可能な開発目標) を桐生市のまちづくりに生かす条例が制定されたことを機に、市内の商店街でも、SDGs を啓発する取組みを始めた。

同組合を構成する4つの商店街には、SDGs のフラッグを設置。一方の面には、SDGs が目標としている17の目標のデザインを施し、もう一方には、商店街が目標として選んだ「住み続けられるまちづくりを」のシンボルマークをデザインしている。また、フラッグの素材は、SDGs の観点から耐久性のあるものにこだわった。



設置場所に馴染むように幾つかの形を用意

館林紬を使ったオリジナル御朱印帳づくりイベントを開催

館林織物連合(協)

同組合では、館林市の日本遺産「里沼」の構成文化財のひとつである「館林紬(つむぎ)」の魅力を広めようと、5月1日から3回にわたり、館林紬を使ったオリジナル御朱印帳を作るワークショップを市内ホテルで開催した。



丁寧に御朱印帳の作り方をアドバイス

ワークショップでは、15種の柄の中から好みの生地を選んで表裏の表紙を作り、2時間程で完成。その御朱印帳を、館林総鎮守である長良神社へ持参するとオリジナル御朱印が拝受できる。館林市外から参加者もいるなど、イベントは大変好評だったため、年内に第2弾の開催を企画中。



館林紬の風合いと色合いがマッチした御朱印帳

フラッグの取付では、市内の大学に通う学生に協力を依頼。商店街活動に協力できたこと、さらに、設置した時期が、ちょうどコロナ禍で学生のアルバイトが減った時期とも重なり、学生に大変喜ばれたとのこと。

また、加盟する商店に対して、SDGs の取組み状況を把握するため、アンケートを実施。アンケートを通じて、SDGs の取組みは特別なことではなく、普段の行動がSDGs の取組みに繋がることを知ってもらった。

今川守理事長は「商店街は、持続し続けることがお客様への貢献となる」と語る。

今後、この活動に関連する取組みとして、市内商業高校と連携し、ネット上で各店舗の魅力を発信する事業なども計画している。